



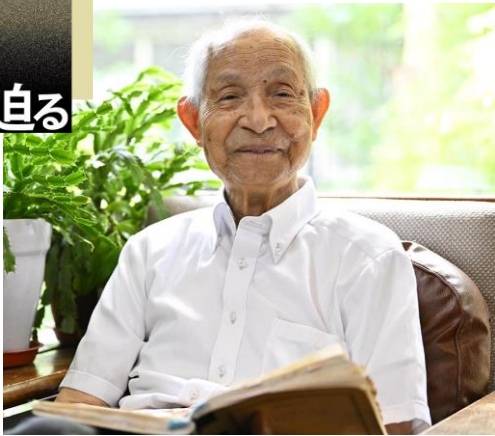
この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年10月1日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

「黒い雨」研究、100歳の科学者

10月1日(日)＝1、3面



迫る

広島に投下された原子爆弾による「黒い雨」を浴びた、と認められた人が増えたのはご存じでしょうか。支えになったのが、一人の民間人が行った調査でした。現地を訪れ、住民の証言を地図に落とし込むといった地道な作業の成果です。

調査をやり遂げたのは、東京都で暮らす増

田善信さん＝写真。今年、100歳を迎えた気象学者です。気象庁を60歳で定年退職した後、黒い雨の範囲を見直すことに力を注ぎました。

増田さんは「黒い雨」の降雨範囲が広がるとの結果を発表しましたが、国は無視してきました。しかし、住民たちが起こした裁判

によって、黒い雨を浴びたと認められた人は増えました。この時、増田さんは97歳。「生きていくうちに評価されたことは幸せ」と率直な心情を明かしました。

正しいことを求める――。そう思い続けている原点は戦争体験にあります。百歳の科学者の心境に迫ります。



私大「定員割れ」半数突破

大学再編の時代へ

10月4日(水)＝3面

今年度、私立大学の「定員割れ」が初めて半数を突破しました。地方や小規模の大学を中心に学生集めに苦慮する現状があります。政府の規制緩和によって約620校まで膨らんだ一方、急速

な少子化で志願者は減っていることが主な原因です。文部科学省は大学の拡大路線を転換し、規模縮小に向けて本腰を入れ始めました。厳しい経営環境にある大学の現状をレポートします。



国会内で開かれた立憲民主党の「性被害・児童虐待」国対ヒアリング＝東京都千代田区で

論点

男性の性被害はなぜ表面化しにくいのか

10月4日(水)＝オピニオン面

ジェンダー事務所で、創業者のジャニー喜多川氏（2019年死去）による少年たちへの性被害が40年以上も続いていました。被害者の多くは誰にも相談できずに苦しんでいました。男性の性暴力被害

について研究する立命館大大学院人間科学研究科の宮崎浩一さんは「男性の性暴力被害は見えづらい」といいます。なぜ被害は潜在化して、被害者は沈黙を強いられるのでしょうか。

特集 ワイド

どうする給食

10月3日(火)＝夕刊2面



中学校で給食をつくる調理員たち＝埼玉県深谷市で

ある日突然、給食が届かない――。そんなショッキングなニュースが駆け巡り、およそ1カ月。全国の学校や警察など約150施設に提供してきた「ホーユー」（広島市）が営業を停止したのを機に同業者を取材す

ると、かつてない危機感が漂っています。「人ごとではないです。ついに起きたかと感じます」。ある給食会社の経営者は、こんな言葉を漏らしました。一体何が起きているのでしょうか。

今年NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の放送から10年です。再放送を懐かしい気持ちで観ている方も多いのではないのでしょうか。毎日新聞の連載コラム「月刊のん」では、9月にロケ地の岩手県で開かれた記念コンサートの様やあまちゃん撮影当時の思い出について、のんさんが語っています。タイトルは「アキ、10年ぶりに地元へ帰る」。こちらからぜひご覧ください。（坂井友子）

